

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダSi 20kg/缶
 専用骨材1厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け コテ(コテ尻幅65mm程度)

● **標準施工仕様**

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダSi	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダSi	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、仕上げコテ等のコテ尻を使用し、ランダムに引っかけ様の意匠付けをする。						追っかけ 模様付け コテ尻幅65mm程度
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ② 主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:180~210mm程度の仕上げゴテや丸ゴテなどのコテ尻を使用して、ランダムにコテ跡を付け意匠付けする。
- ② パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③ 表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、コテ尻幅60~70mm程度とし、引き摺り意匠の長さは75~125mm程度とする。
- ⑥ コテ跡は、ラフにコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。